

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【創造科学系】

知識を問う課題ではなく、学生の考えを深めさせ、考えを表現させる課題を授業毎の小レポートと最終試験で行った。よって、基準は自分の考えを論理的に述べてられているものに関しては高評価を与えた。一方自分の考えでなく、配布した資料で得た知識を述べるだけの学生に関しては、低評価を与えた。

シラバスに明記したように、報告書、期末試験、授業態度を総合して評価した。

「身体・運動感覚との対話・分析・交流」をテーマとしたので、そのテーマへのアプローチ姿勢と到達度合いを評価した。

授業の取り組み姿勢、企画・運営、出席状況などを総合して評価した。

期末試験の得点のみで評価しました。  
成績評価の基準は80点代:A, 70点代:B, 60点代:Cでした。

高校まででは知り得てこなかった、新しく知った知識(学校保健のしくみや意図、課題)の量と質

主に、「出席・態度」「毎時間の振り返り」「レポート」「最終作品の出来具合」を基に、成績評価を行いました。

シラバスにも記載どおり、振り返りとしての「ポートフォリオ」評価が中心で、それに出欠について(欠席について若干の減点)で評価。

テストの成績を基本とし、各授業への出席状況も加味して、総合的に評価した。  
今回のテストの特徴としては、問われたことに関する定義的な説明に留まった解答が多くみられた。求められているのは、そうした概念を用いて考察することにより得られたり、提案に結び付いた計画内容である。そこまでの解答を行っているものは少なかったのが残念である。授業内容は基礎的なものであり、社会に応用するという視点・問題意識をもって取り組んでほしいものである。  
高校の教科書についても、学習されていないレベルであった。

出席率・受講態度と最終試験の総合点。

試験結果を主として、全員合格となった。

課題に対する意欲と提出物、及び出席率。

愛知県内の伝統的工芸品の産地の方々にお越し頂く授業以外に、7~8回分の授業では、次のような内容で授業を行っている。伝統的工芸品に関する基礎知識について・伝統的工芸品のうち陶磁器に関する産地を産地ごとに紹介・受講生各自で伝統的工芸品の産地の中から一つを選んで小学校または中学校の子どもたちが伝統的工芸品について学ぶ際の資料づくりを行ってもらっている・授業の中で扱った内容に関してペーパーテストなど。これらの各内容について、成績を出し、それらを総合的に判断して成績を点けている。

「日本美術史概論Ⅱ」と「日本美術史研究Ⅱ」については、授業時間内に作成するレポートの他に学期末にまとめた枚数のレポートを課し、授業内容の理解度や参加の姿勢を対象に、到達目標にどの程度達しているかを基準に成績評価した。「美術史演習Ⅳ」については、発表内容に関して先行研究の踏まえ方、考察の合理性などの水準とパワーポイントを用いた発表方法、及び事後レポートを含めた授業への参加姿勢を評価の対象とし、到達目標にどの程度達しているかを基準に成績評価した。

AとBの評価中心とした。学生は熱心に授業に参加した。皆さんは作品の提出も締め切りに間にあった。

(織)AとBの評価中心とした。学生が熱心に授業に参加して、締め切りまで作品の提出した。  
(金工)提出作品と出席で総合評価した。  
※織と金工の成績を足して2で割って成績としている。

ほとんど、小テストの成績で、一部出欠を加味した

到達目標をどれほど達成できているかを総合的に判断した。特に、当該年次で身に付けるべき技能の習得度合いや、授業で扱った内容に対して、自らの意見をどれほど論理的に述べているかを重視して評価した。

製作物(小作品、段階標本)は、全て、製作のポイント項目ごとに分けて採点し、その合計点をもとにその都度評価します。例えば、糸調子、際縫い、糸やペン跡の始末、縫ったら割る、柄合わせ、製作方法、左右対称等、マチの長さ、裁断方法、ファスナー付け、持ち手の付け方、美しさなど、作品によって評価内容や配点は変わります。問題点がある場合は、その内容を書いて作品を返します。それらを直して再提出することで、点数をアップすることは可能です。出欠席や、授業態度なども参考にしております。それらを総合して成績を出しております。

到達目標をどれほど達成できているかを総合的に判断した。特に、当該年次で身に付けるべき技能の習得度合いや、授業で扱った内容に対して、自らの意見をどれほど論理的に述べているかを重視して評価した。

出席、予習(授業の準備)、グループ活動での姿勢、最後の演奏発表、などを総合的に判断している。

学期末に実施するマークシート式の試験により成績を確定している。基礎的な設問のみで60点をとれるよう配慮はしている。

出席率や提出物やレポート等の提出率や内容を総合的に判断した。

シラバスに記述したとおり、授業への参加度を30%、期末レポートを70%として採点した。レポートについては、課題に充分に応えているか、自らの意見を明確に述べているか、論理的な記述ができているかに留意して評価している。

・出席率 (1/3=5回以上の欠席は不可)  
・授業態度(向上心をもって意欲的に取り組んでいるか。積極的に質問やディスカッションをしているか。)  
・実技課題の評価(3~5の実技課題の評価)  
・修得度・向上度  
上記の項目を10段階で評価し、それらの平均値を割り出し評価点とする。

ダンスの技能(なりきっているか、生き生きと踊れているか)  
作品創作への積極性(どれくらい意見が言えているか、動きを自ら提案しているか)  
出席回数